

## 第5回 清瀬市公共施設を活用した子どもの居場所検討委員会会議録

### 1 開催日時

令和6年11月20日（水）14時30分から16時まで

### 2 場所

清瀬市役所3階 会見室

### 3 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) 資料確認

事務局が資料確認を行った。

#### (3) 前回会議の会議録確定

ア 4ページの下の方で、子どもの声を聞いたからには返していかなければならないという発言があったように思う。

イ 4ページのどんな大人がいるといいとの箇所。いつもびしっとでは困ると思うだけだと言葉が足りない。困ると思うというよりは、トラブルがおきた時に、子どもの声を聞けるような、そのような大人が必要なのではないか、というような趣旨のことを話した気がする。そこを付け加えてほしい。

#### (4) 意見交換

意見は以下のとおり

- ・提言書案の中で社会的背景として次の文章を入れていただきたい。

「昔は地域の住民によって、子どもは見守られていた。近所の付き合いがあり、住民同士がお互いの家族構成を把握しており、近隣の子どもについても動向を見守っていた。しかし、近所付き合いが薄くなり、子どもを見守る目がなくなったこと、核家族化、両親共働きが増え、子どもが兄弟あるいは一人だけで家にいることが増えたことなどから、こどもの居場所を提供する必要性が出てきたと考えられる。」

- ・提言書案の中で、学校に居場所がない子についても触れておいた方がいいのでは

- ・不登校だけではなく、仕事につけないとか、居場所がない人についても触れておくとういのでは

- ・若者支援についてもいれてみる
- ・提言の文章で下から2行目で「入れ込んだつもり」がいないのではないか
- ・図の下の文章で、「子どもにとっては…どちらも」まで無くてもよいのでは。その方がすんなりと受け入れられるのではないか。立場によっては家庭が悪いのではないかと思われるように感じた。シンプルにいろんな居場所があるだけでいい、というだけでいいのではないかと思った。
- ・学習スペースについては、一人用とグループ用の話が出てくるが、そこまで言い切っているのかなと思った。
- ・大人のところで、「信頼でき理解してくれる」という言葉でいいのか、委員のみなさんの意見を聞いてみたい。どういう大人なのか、子どもの権利を尊重できるなのか。
- ・運用面で「トラブルを未然に防ぐ」というのは違うのでは。その子ども達がそれぞれが自分を大切にできるような環境をつくれるように大人が作れる。「未然に防ぐ」というのは決まりをいっぱい作っていくようになってしまうのでは。大人は見守る存在なのか、コーディネートする存在なのか、大人の位置づけが気になった。
- ・中央児童館のような遊び場、という書き方ではなくもっと具体的に書きたい。
- ・子どもが走り回れるスペースというのが、提言書案だと室内だととらえられるような書きぶりになっている。外だということが明確にわかるようにしてほしい。
- ・バスケットコートのような施設ということも具体的に書いてあげるといい。
- ・子どもが遊びまわれるように適切な広さというものがある。
- ・その場所に集まる子ども達を見て、ニーズを見て対応を考える必要があるとすれば柔軟なものになる。
- ・冒頭のところでより具体的にかくべき。清瀬市ではどのようなことが起きているのかを。
- ・公共施設をつかって子どもの居場所を作らなきゃいけない必要性、行政としてとか。どうして作らなきゃいけないかをもう少し具体的に。
- ・トラブルを未然に防ぐというのは必要ないと思う。
- ・今ある公共施設の中でころぼっくるのような子どもの居場所を作っていくというのがあまり現実的ではない。
- ・子ども一人一人の個性、一人一人を尊重するだとか、子どもの権利条約に則った子ども自体のことを。

・子どもが信頼できる大人って、我々が思っている大人とは違うかもしれない。

・どんな悪い子どもだと思っても、一人一人が尊重出来てここだったら自分がいられると思わないといけないと思う。そのあたりは提言書に入れてもいいと思う。

・一定のルールは必要だと思うが

・子どもにどんな居場所にしたいかを聞いて整えていくということも。

・テーブルとイスでもすごく工夫できる。

・飲食も良いようにするなど、今までにない発想の居場所ができるといいなと思う。

・最低限のところは大人がつくる。そこからは子どもたちと一緒に作っていく、考えていく、というのが大人の役割だったりするのでは。

・子どもが危険にさらされることはあってはならない。そこは守る。ただ、もっと自由に居られる場所があったらいい。遊びたい、読みたい、学びたいとか、子どもが自発的に思うところの権利を大切にできるように作ればいいかなと思う。

・トラブルを未然に防ぐというのは気になった。多少トラブルがあったとしても見守る姿勢は必要だと思った。暴行にいたるような場合には毅然に対応するようにする。

・毅然な対応にも、日頃からの信頼関係が必要になってくる。

・環境を安全にしておくというのが必要。ハード面を整えておくとうことが必要。

・大人はある程度固定の人がいるということが必要。信頼関係を構築するために。

・子どもの「権利」というよりも「尊厳」を併せて記載した方がいいのでは。ありのままのその子供たち、ありのままの価値、それをそのまま受け止めることは大事だと思う。

・どんな子どもたちでもありのままが大事だというスタンスは大事だと思う。

・周りの地域性がどんなところがある、というのは示す必要があるのでは。

・外遊びが読み取れないので、バスケット、サッカーなど。水遊びなども。

・清瀬中学区だと、エチュードという学習室がある。地域ごとに何があって何がないのかを整理して検討すべき。

・下宿があまりない空間になっているように感じる。

・下宿の図書館を見たが、小学生が遊びに入るには奥まり過ぎて入り

にくい場所だと感じた。下宿地域については、図書館スペースは中高生の勉強スペースに普段は限定してもよいように思った。調理スペースを作って子ども食堂などもできるようにしたらいいのではと思った。

- ・竹丘は広そうなので、学習スペースと小学生が遊ぶスペースが分けてできるといいと思った。

- ・来る子どもに応じて設備を変えられるようにしておく仕組みがあるとよい。

- ・中遊び外遊びがそれぞれの年齢でできること。

- ・作ってみて、子どもが来てみて、子どもの意見を聞いて変えられるようにしてもよいのでは。

#### (5) その他

今後のスケジュールについて事務局より報告をして閉会となった。